

いづれの御時にか、女御
更衣あまた候ひたまひけ
る中にいとやむごとなき
際にはあらぬが、優れて
時めきたまふありけり。

源氏物語「桐壺」より


書

(楷書)

課題解説

平安時代の雅な宮廷世界

課題文は源氏物語の冒頭、桐壺の巻の書き出し。読みは「いづれのおんときにか、にようご・こいうあまたさぶらいたまいけるなかに、いと、やんごとなききわにはあらぬが、すぐれてときめきたもうありけり」。

音読・暗唱の大事さが学習指導要領でも強調されているが、源氏物語もその教材にふさわしい。11世紀初頭に成立したこの物語は作者の紫式部が仕えた平安朝の宮廷が舞台。そこでの男女の心理の微妙な綾（あや）が展開されていく。